

関連学会印象記

第22回日本冠疾患学会学術集会

瀬 在 明*, 南 和 友*, 齋 藤 穎**

平成20年12月12日、13日の2日間に、テーマを『虚血性心疾患治療のフロンティア：AMIから末期心不全まで』と掲げ、日本大学医学部外科学系心臓血管外科学分野の南和友会長(写真1)、内科学系統合健康医学分野の齋藤穎会長(写真2)のもと、東京・新宿の京王プラザで第22回日本冠疾患学会学術集会が開催された。本学会は“冠動脈疾患治療に携わる”内科と外科の専門家が1つになって、運営、討論し合う他にない学会であり、学会の特殊性を最大限に活用し、各セッション、内科と外科の発表を一緒にする企画を多く組み込んで行われ、幅広い討論がくりひろげられた。演題数は288題、学会参加者は医師579名、コメディカル・学生294名、一般市民講座参加者612名と1,500名近い参加者が集まり、過去の本学会での最高数であり、主催者の想像を遥かに上回るものであった。理事や関係者の方々のご支援に深く感謝する次第であります。

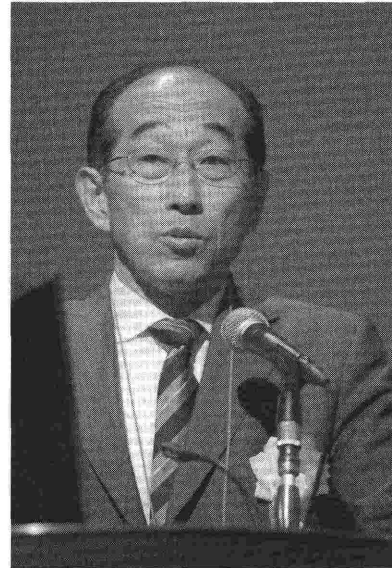


写真1 外科系会長：南和友会長



写真2 内科系会長：齋藤穎会長

*日本大学医学部外科学系心臓血管外科学分野

**同 内科学系統合健康医学分野

招請講演者として、米国から Tobis 教授, Kern 教授, ドイツから Koerfer 教授を招き, PCI, 救急手術の最先端の治療について報告していただいた。またドイツから Koertke 先生を招き, 教育講演で『ESCAT-III: Very low dose INR-management with telemedical support』の内容で, 海外では進んでいる INR の自己測定の必要性と管理方法について報告していただいた。今回のメイン・シンポジウム『PCI 施設, 心臓外科施設の集約化をどのように行っていくべきか』では深い討論が行われた。外科医師, 内科医師だけでなく, 東京医科歯科大学・医療情報システム分野の伏見先生に参加していただき, 我が国の循環器医療提供体制の現状について, 数多くのデータから得られた貴重な報告がなされ, そのデータをもとに, 活発な討論がなされた。医療の質の向上と効率化, 専門医育成のためには施設の集約化は必要不可欠であり, 集約化に向けた全国レベルでの調査が早急に必要であるとまとめられた。他のシンポジウムも内科外科合同シンポジウム『長期予後からみた冠血行再建法』『虚血性心筋症のマネージメント (ICD, volume reduction surgery, VAD, etc)』『心原性ショック症例に対する治療戦略』『日本の大規模臨床試験のエビデンス』でも活発な討論がくりひろげられた。内科外科が1つのテーマについて深くディスカッションする機会はなく, 循環器内科の学会あるいは心臓外科の学会ではシンポジウムでは討論されないような, 幅広い内容についてのものであった。また, どのシンポジウムでも内科と外科の連携強化の必要性が話され, 集約化とともに内科外科の連携, 協力体制の必要性が急務であると考えられた。

今回, 新たな試みとして2つあった。1つは日本冠疾患学会の企画として, 学会の教育委員会委員長の前野教授, 副委員長の丹羽先生の企画のもと, 『循環器医療・研究の魅力について語ろうー若い人たちへのメッセージ』が開催され, 循環

器内科外科を志す研修医, 都内の医学生が数多く参加し, 彼らにとっても魅力的な発表がされた。もう1つは, 日本心臓リハビリテーション学会特別企画として, 『心臓リハビリテーションはなぜ行うのか? どのように行うのか?』が行われた。心臓リハビリテーションについての問題点, 方法など明日からの医療に役立つ企画であった。

学会2日目の午後からは市民公開講座・臓器移植『第4回ハート to ハート』が行われ, 一般市民612名以上の参加者の集まり, 会場は立ち見が出る状況であった。本公開講座は, 日本の進まない移植医療を推進させていくために, 日本大学として, 毎年行っているものである。移植医療の関わる医師, 関連団体, 移植を啓蒙するオリンピック選手などとともに行っている。昨年, ハート to ハート・ジャパン (<http://minami-kazutomo.net/heart/heartmain.html>) という NPO 法人を立ち上げた。会では, 移植体験者やそのご家族の話には聴衆者の涙をさそい, 3時間を超える会であったが, 常に満席の状態であった。また日本から数多くの移植患者を受け入れていただいた Koerfer 教授にも急遽参加していただいた。『法律があるのに, 日本の移植医療が全く進まないのには理解できない』とのお言葉は, 私の心に強く残り, 今後もさらに精力的に行っていく必要性を確信した。

今回, 本学会を主催し, いままで外科のみの学会は数回企画しており, ある程度の運営面での自信はあって準備を行ってきたが, 内科医師のきめ細かい学会運営, 企画などが大変勉強になるものであった。両会長, 内科系の事務局長の平山教授, 落理事長, 前回の大会長の夜久教授, 各理事, 各座長の方々には大変お世話になり, 深謝次第であります。

次回第23回は大阪で, 南都会長(内科系), 澤会長(外科系)のもと開催される予定であり, 内科外科での熱い討論がなされるものと思われます。